

1 教育研究計画

(1) 研究主題

本校研究主題

自ら考え、論理的に表現することができる児童の育成

～数学的表現様式の変換を通して～

(2) 主題設定の理由

本校は昨年度、3年間の研究の初年度としてICT機器を活用しながら授業改善を行ってきた。

しかし、標準学力調査の結果、算数科で昨年度の1～5年生は全国平均50を超えることができず、単元末テストでも80点以上の児童の割合が80%以上のクラスが少なかったことなどから、算数科における基礎基本が身につけていないという実態が明らかになった。また、自分の考えがもてないため、相手に伝えることや、友達の考えから新たな学びを得ることに関しても課題がある。

新学習指導要領の改訂では、先の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成することが求められている。算数科では、「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成すること」が目標とされている。

これらのことを踏まえて、今年度は、研究主題を「自ら考え、論理的に表現することができる児童の育成～数学的表現様式の変換を通して～」と設定した。また、中央教育審議会答申（平成28年）には、改訂の具体的な方向性の中に「幼児教育や中学校教育との接続を考えながら、低学年、中学年、高学年の発達の段階に応じた資質・能力の在り方や指導上の配慮を行う」と教育課程の基本的な枠組みが示されている。各学年の算数科でつける力を系統的に整理し、確実に定着させることで、児童に基礎的・基本的な学力を身に付けていきたい。

(3) 研究のねらい

数学的な思考力・表現力の育成を目指して、教師が単元や学年に応じた数学的表現様式の変換を適切に用い児童へ意識させることで、児童一人一人が主体的に考え、論理的に表現できるようにする。

(4) 研究仮説

数学的な表現様式を意識し、児童が自分の考えを表現し説明する算数的活動や表現様式を変換する活動を中心とした授業を行えば、児童一人一人が自ら考え論理的に表現する力が育つであろう。

(5) 研究内容（研究の方向）

- ①数学的表現様式を用いたノートの活用力の向上
- ②数学的表現様式の変換を用いた交流場面の充実

(6) 検証の指標

- ①自分の考えを、既習を生かしながら様々な表現様式を用いてノートに書くことができる児童の割合（(5)－①）
- ②単元末テスト知識・技能の観点（(5)－①）

③交流場面において相手に質問したり, 確認したり自分の考えを見直したりしている児童の割合 ((5) - ②)

④授業の振り返りをノートに記録することができる児童の割合 ((5) - ②)

(7) 到達目標

①自分の考えを様々な表現様式を用いてノートに書くことができる児童の割合
→85%

②単元末テスト知識・技能の観点→80%

③交流場面において相手に質問したり, 確認したり自分の考えを見直したりしている児童の割合→80%

④授業の振り返りをノートに記録することができる児童の割合→100%

(8) 校内研修計画

| 月 | 日 | 曜 | 研究内容 | 講師 |
|----|----|---|--|-------------|
| 4 | 16 | 木 | 研究推進の方向性について | |
| | 23 | 木 | 研究推進の方向性について協議 | |
| 5 | 7 | 木 | (課題受け渡し) | |
| | 14 | 木 | (課題受け渡し) | |
| | 21 | 木 | 事前研(特支すみれ・たんぼぼ) | |
| | 27 | 水 | 授業研(協議)(5-1)(5-2) | |
| 6 | 4 | 木 | 個人研修(教材研究) | |
| | 11 | 木 | あゆみ成績処理について | |
| | 18 | 木 | 授業研(特すみれ)(特たんぼぼ) | 新林先生(?) |
| | 25 | 木 | 校務支援システム研修 | |
| 7 | 2 | 木 | 学習発表会提案 | |
| | 9 | 木 | 個人研修(成績処理) | |
| | 16 | 木 | 個人研修(成績処理) | |
| | 30 | 木 | 夏季休業中の研修について | |
| 8 | | | 2学期以降の授業研究指導案作成・ 授業公開指導案作成・指導案検討・シミュレーション | |
| 9 | 3 | 木 | 個人研修(教材研究) | |
| | 10 | 木 | 指導案検討(3年か4年) | |
| | 17 | 木 | 授業シミュレーション | |
| | 23 | 水 | 授業研(3年か4年) | |
| 10 | 1 | 木 | 学習発表会確認 | |
| | 8 | 木 | 指導案検討(3年か4年) | |
| | 15 | 木 | 学習発表会最終打ち合わせ | 18日(日)学習発表会 |
| | 22 | 木 | 発表会振り返り | |
| | 29 | 木 | 授業研(3年か4年) | |
| 11 | 5 | 木 | 指導案検討(1年・長尾) | |

| | | | | |
|----|---------------------------|-----------------------|--|---------------------|
| | 12 19 26 | 木 木 木 | 授業研究の振り返り・学力定着実態調査について 授業研（長尾・理科） 授業研（1年） | 八島先生（?） |
| 12 | 3 10 15 17 24 | 木 木 火 木 木 | 個人研修（成績処理） 指導案検討（授業公開2年） 学力定着実態調査 指導案検討（授業公開6-1・ひまわり） （個人懇談会） | |
| 1 | 7 14 22 28 29 | 木 木 金 木 金 | 指導案検討（6-2） 授業シミュレーション 個人研修（教材研究・来年度教育計画案作成） 授業公開準備・午前中堅研（?） 授業公開（高 6-1）（低 2年）（特 ひまわり） | 関根指導主事 八島先生・新林先生 |
| 2 | 4 17 25 | 木 水 木 | 学力定着実態調査の結果分析 あゆみ・要録の成績処理について 授業研（6-2） 個人研修（成績処理・来年度教育計画案作成） | |
| 3 | 4 11 18 25 | 木 木 木 木 | 個人研修（成績処理・来年度教育計画案作成） 個人研修（成績処理・来年度教育計画案作成） 今年度の研究のまとめ 総合的な学習の時間学習内容について交流 | |

講師 元広島大学附属小学校 主幹 八島 恵美先生

尾道特別支援学校 教育相談主任 地域支援部長 新林 美穂先生